

・日本分光学会

1. 昭和43年11月6日 (水)～8日(金)
2. 第4回応用スペクトロメトリー東京討論会
3. 東京都立産業会館 (千代田区大手町1-2)
4. 応用物理学会・日本質量分析学会・

日本化学会・日本分光学会・日本分析化学会

5. 東京都渋谷区本町1-1-5 東京工業試験所内  
社団法人 日本分析化学会気付 東京討論会実行委員会  
Tel. (03) 377-5211 内線310

・物理探鉱技術協会

1. 和和43年10月3日(木)～6日(土)
2. 昭和43年度秋季大会
3. 秋田市手形学園町 秋田大学鉱山学部
4. 物理探鉱技術協会
5. 川崎市久本 地質調査所内物理探鉱技術協会  
〔Tel. (044) 86-3171〕

・日本質量分析学会

- A. 1. 昭和43年11月4日(月)～5日(火)
2. 質量分析学会同位対比部会 研究討論会
3. 福岡市箱崎町 九州大学理学部大会議室
4. 質量分析学会
5. 東京都港区六本木 7-22  
東京大学物性研究所 本田雅健 Tel (03) 402-6231

福岡市箱崎町 九州大学理学部地質学教室  
山田 勝 Tel (092) 64-1101

- B. 1. 昭和44年9月8日～12日
2. 質量分析国際会議
3. 京都市左京区宝池  
国立京都国際会議場 Tel (075) 791-3111
4. 日本質量分析学会
5. 大阪府豊中市待兼山町 1-1  
質量分析国際会議事務局 緒方健一  
Tel (0727) 61-1381 (内線2460)

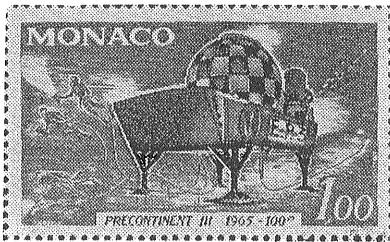
・日本地下水学会

1. 昭和43年10月18日(金)
2. 昭和43年度秋季講演会および見学会
3. 大阪市東区法門坂町10 大阪府農林会館
4. 日本地下水学会
5. 神奈川県川崎市久本135  
地質調査所水資源課内 日本地下水学会  
Tel (044) 86-3171

・日本海洋学会

1. 昭和43年10月8日(火)
2. 例会
3. 東京都千代田区大手町 気象庁 講堂
4. 日本海洋学会
5. 東京都中野区南台 1-15-1  
東京大学海洋研究所内 日本海洋学会  
Tel (03) 376-1251

〔注〕 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場  
4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)



海洋開発の切手

堀内 恵彦

近年 世界的に海洋の開発が 盛んに論じられていますが わが国でも すこしずつ この方向に進んでおり 科学技術庁の所管で 海洋調査潜水船「くろしお」号が 建造中ですが ほぼできあがる最近になって 作業用母船が必要であるということで これから建造予算を獲得しようという始末です。民間でも 本年9月初旬に 愛媛県宇和島で 深さ7mの海底に「歩(あゆみ)号一世」と名付けられた 海底生活実習筒を沈下させ 2人の青年が一週間の海底生活を体験したことは 新聞等でご承知のこととおもいます。

切手の面では 海洋開発を題材にした切手は 海底油田の開発用やぐらを描いたもの以外は ほとんどありません。ここに示す切手は 1965年にモナコで発行された1フラン切手で プレコンチネント(Precontinent) 三世と名付けられた 海底調査用中継基地が海中100mの深度に沈下することに成功したのを記念して発行されたものです。

この名前は大陸(コンチネント)の先の部分とか先に位置するというような意味で名付けられたもので 陸上との連絡用ケーブル 気圧室などもみられます ただ海中100mもの深さになりますと 図にみられるような簡単な装備の潜水夫が 自由に海中で活動できるかどうかは 少々疑問です。モナコは小国ですが 海洋研究については 世界的に高水準にあって 世界一といわれる海洋博物館もあります。ここに掲げた切手のほかに 1962年には 海中博覧会を開催したのを記念して フログマンや海中観測用の潜水筒を描いた切手を発行しております。

わが国でも 一日も早く 周辺の海洋資源の開発や 観光事業が軌道にのってほしいものです。

(筆者は元所員現科学技術情報センター)